

工業加熱

INDUSTRIAL HEATING

2009/3 VOL.46 NO.2

通巻272号 隔月刊・奇数月発行

対談

- 協会高橋副会長とボディコート・ジャパン(株) ベイショア代表取締役聞く

技術解説

- 熱間プレス装置設備紹介
- 普通鋼用ストリップキャスト (第二報)
- ～活エネルギーとCO₂排出削減に向けて～
今こそ廃熱回収ボイラを!
- 常圧焼結炭化ケイ素熱交換器の伝熱解析
- α -サイアロンセラミックスローラーと
その応用
- オートマチックトランスミッションの材料
・ 熱処理技術の動向と課題

対談

社団法人 日本工業炉協会 高橋慎一 副会長（関東冶金工業株式会社 代表取締役）、賛助会員 ボディコート・ジャパン株式会社 ジュリアン・ベイショア 代表取締役に聞く

今般、(社)日本工業炉協会 高橋慎一 副会長（関東冶金工業(株) 代表取締役社長）が昨年、工業炉協会に、賛助会員として入会された、ボディコート・ジャパン(株)代表取締役ジュリアン・ベイショア様と面談されました。協会の会員としてはユニークな、工業炉のユーザとしての入会のいきさつ、熱処理業の現状や工業炉に望む事などを中心にお話をお伺い致しました。司会は、(社)日本工業炉協会の古藤が務めました。

—司会 本日はご多忙中このような機会を持って頂きありがとうございます。

—高橋副会長 ボディコート社は、1923年に英国に織物会社として設立されました。織物業から熱処理業に進出されたいきさつからお伺いしたいのですが。

—ベイショア社長 70年代に織物や、一部耐火服地等を生産しておりましたが、(株)豊田自動織機さんが、繊維機械から、自動車部門へ進出されたのと同じように、ボディコートも表面処理分野へ進出しました。その後、繊維よりも売上、利益に寄与する表面処理、熱処理事業に力を注ぎ、2007年度の売上では約1,420億円、世界28カ国に191を超える拠点を持っています。スタートから従来熱処理業を営まれる方々の協力を得て事業を展開してきました。

—司会 熱処理業以外、工業炉の内製及び工業炉製作メーカーとしての事業も行っておられるのでしょうか。

—ベイショア社長 一時期は自社のノウハウに基づく内製の「炉」を製作したこともありましたが、外販は一切しませんでした。今後も工業炉製造販売の計画はありません。理由は2つ有り、炉の製作は売上の増減が激しい。一つは、外販後の炉のメンテナンスに人材が必要であるからです。一方、熱処理業は売上の増減も比較的穏

やかで、経営も安定するからです。

従い、世界の各工場で操業中の熱処理炉は、全て購入品で現状は欧州の炉メーカ、特にドイツ製が多い、アメリカ製もけっこう多いです。

ボディコート社のポリシーは、「現地主義」である。ごく一部の特殊炉を除き、生産設備用の炉は、すべて事業拠点の国内から調達しています。

—高橋副会長 日本の工業炉業界は、サブプライムローンの影響を激しく受けております。ボディコート社はどうでしょうか、また日本における事業展開をどのように考えられておられますか。名古屋に上陸され、自動車関連の熱処理を主に検討されているのですか。

関東冶金工業株式会社 確かな技術と信頼のブランド KYK

営業方針

創業以来、卓越した技術と豊富な経験で、優れた熱処理設備を産業界に提供してきました。今後も多くの実績と、たゆまぬ技術開発をもとに「技術のKYK」に相応しい製品を提供していきます。



■本社・工場	平塚市四之宮 3-20-48
■浜松ブレージング工場	浜松市東区小池町 1521 (受託加工・テスト)
■お問合せ先	<営業部> TEL.0463-55-1083 FAX.0463-55-5130
■URL	http://www.k-y-k.co.jp
■Eメール	general@k-y-k.co.jp

●企業概要

設立	1957 (昭和 32) 年 12 月
資本金	9,100 万円
代表者	代表取締役 高橋 慎一
従業員数	90 名
事業内容	工業用熱処理炉の開発・設計・製造
年商	55 億円

主力製品

- ・金属熱処理用工業炉
- ・ろう付炉
- ・新素材関連高温熱処理炉

得意技術

- ・当社技術開発により、国内はもとより世界中ほとんどの自動車メーカーに採用されているアルミ製熱交換器等を製造するアルミ連続ろう付炉や、ステンレス・鋼系連続ろう付炉
- ・独特の炉内雰囲気コントロール技術・省エネ技術を駆使したあらゆる金属分野での熱処理炉、粉末冶金焼成炉、セラミック・カーボン・ウラン等、新素材関連用「～3000℃超高温域」焼成可能な高温連続炉

—ベイショア社長 現状のボディコート社の熱処理の売上内容は、自動車関連で約25%、そのため多少の影響はある。しかし残り75%は航空機用部品など他の分野です。

ボディコート社は、熱処理業者の買収により、今後10ヶ所くらいの事業所展開を考えており、1ヶ所で最低2億円程度の売上規模を考えています。

買収については次の3つのケースが考えられます。

1. 熱処理経営の後継者がおられない、及び現場責任者を始め人材が不足している場合
2. 現在の会社のネームバリューが小さく販売促進が、はかどらない場合
3. 最新の熱処理の技術導入の設備投資が資金的、人材的に難しい場合

などの問題点を、現状の経営当事者と十分話し合いし、M&Aに持って行きたいと考えています。現在、5事業所と折衝中で、2010年には最初の1社を立ち上げたいと考えてます。

—高橋副会長 工業炉協会は、平成19年、会員の売上は年間約2,877億円。新設炉の売上地区は、中部地区、関西と西に需要が多い。本統計をどう見られますか。

—ジュリアン社長 売上だけでは詳細はわからない。炉の種類が今後のトレンドを見る上で必要。協会の発行する、会員の売上統計の炉の種類別販売統計は興味深く解析している。今後日本では余り活発ではない、HIP処理などもトレンドとして、進めていきたい。特に今後は航空機部品分野の熱処理の受託促進を図りたい、この分野は欧州、アメリカで多くの実績があり、日本の航空機部品製造メーカーからの熱処理受託も営業していきたい。また、環境機器の分野にも仕事を広げたい、今検討しているのは、風力発電用の機器の熱処理受託。ブレード、回転用の軸受け、プレーキ部品など、これらも今後、欧州

で、培った熱処理技術を活用し熱処理受託の促進を目指したい。

—高橋副会長 (社)日本工業炉協会に賛助会員として入会された理由及び正会員に望まれることが有りましたら、お話し下さい。

—ジュリアン社長 (社)日本工業炉協会に入会した理由は

1. 有力な工業炉メーカーの幹部と人脈を造り、ボディコート社のニーズにあった熱処理工業炉を納入して頂ける会社を探したい。
2. 買収した企業が、熱処理部門と工業炉製造部門の両方をお持ちの場合、ボディコート社は炉製造部門を工業炉協会の会員さんに紹介し、買収に関心があるか話を聞いて頂くため。

今後の熱処理のニーズ、低圧浸炭、浸炭から窒化などの熱処理技術に興味を持っています。日本ではまず、目についたのが部品の真空脱脂洗浄装置に優れた技術を持っておられ、日本で調達し、海外の事業所にも持っていきました。日本で操業する限り、規格はJISで良いが、海外に輸出される時はISO規格も必要で、工業炉協会が必要で有れば、世界に通じる規格のアドバースも出来ます。

—司会 本日は貴重なお話を受け賜り、ありがとうございました。

熱処理受託加工のリーディングカンパニー

Bodycote



ボディコート・ジャパン株式会社

〒451-6040 名古屋市西区牛島町6番1号
名古屋ルーセントタワー40階

Tel: 052-912-5518 Fax: 052-569-1590

E-mail: japan.sales@bodycote.com

HP: <http://www.bodycote.co.jp>

